

津田左右吉物語

第29回

左右吉をとりまく人々

(丸山真男^{まさお}・東京大学名誉教授)

日本を代表する政治思想史学者の丸山真男氏は「津田事件」の直接の目撃者であり、当事者の一人でもありませんでした。

丸山氏と左右吉の運

命的な出会いは、昭和14年から開講した東京大学法学部東洋政治思想史講座に始まります。当時東京大学法学部助手の丸山氏は、左右吉の講義を毎週聴講していました。

その年の暮れに行われた最終講義に、「学生協会」(原理日本社の後援による学生組織)のグループが、左右吉を数時間にわたって糾問きうもんしたのです。その危急の場を、丸山氏が身をもって救出しました。

翌日、左右吉は原理日本社の機関新聞により糾問され、その後、四著作の発禁、起訴と受難の時代を送りました。

丸山氏は、『ある日の津田博士と私』の中で「…私はそのモヤモヤした気持ち
打ちあけた。先生は笑って問題にされなかったが、たとえ何万分の一にしろ、津田問題の「悪化」に対して自分もコミットしているという
感じを、今日まで私はふっきることができないのである」と述べています。



▶丸山真男 教授
撮影 / 高木博義